

「伊田安政津波の碑」

名称	伊田安政津波の碑（いだあんせいつなみのひ）
所在地	黒潮町伊田金比羅神社
所有者	伊田郷地区
奉納年月日	安政元年頃
員数	1基

▣ 詳細について

碑文は次のとおり。

「すずなみきたるときは、ふね十丁ばかりおきへかけとも申事甚よし（以上小文字）
安政元甲寅十一月四日、すずなみ来。同五日七つ頃大ぢしん大しお入。
浦一同リウしつ。是よりさき百四十年より百五十年まで用心すべし
為後世 記之 松山寺住 行年六十四 文瑞 自作」

碑文から察するに、作者は147年前の宝永地震・津波（1707）について知っており、140年から150年後に次の南海地震が起きることを予測し、子孫に教訓を与えている。使用されている文字は、ほとんど崩し字が使用されておらず、現代人でも容易に判読することが可能である。碑文の最後は「後世のために、之を記す」と締めくくられており、作者の意を読み取ることができる。

以前は、津波が襲来した位置の伊田岸の川、通称二本松にあったが、川の改修工事のため昭和62年（1987）、約100メートル西の金毘羅神社の鳥居前（現在地）に移されている。

また、金毘羅神社の階段3段目まで津波が到達したという伝承があり、このことから碑はこれに合わせたコンクリートの台座に鎮座されている。

